

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770103012		
法人名	有限会社 博永興産		
事業所名	グループホームオアシス香西		
所在地	香川県高松市檀紙町1452番地1 (電話)087-815-6511		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成22年1月27日	評価決定日	平成22年3月26日

## 【情報提供票より】(21年12月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月12日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤11人 非常勤4人	常勤換算13人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨併設型	造り
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	24,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月27日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	15名
要介護1	2名	要介護2	1名	
要介護3	7名	要介護4	5名	
要介護5	2名	要支援2		
年齢	平均 87歳	最低	80歳	最高 100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	香西内科医院、池尻歯科医院
---------	---------------

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営推進会議、併設のデイサービスとの協力で、イベント等を開催し、地域交流や他施設間交流につなげております。また、他施設でのイベントにも参加させて頂き、交流や情報交換を行う事で質の向上を図っております。  
 ・面会時や手紙等で状態報告を行ったり、現在の利用者様の様子を1年間でまとめアルバムにし、御家族様に手渡し好評を得ています。  
 ・ユニット目標を掲げ、利用者様一人ひとりが尊重され、穏やかで落ち着いた生活が送れる様、スタッフ間で常に報・連・相を基に日々取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所の理念は「やすらぎ・安心・癒しの空間」で、認知症高齢者の方を優しく包み込み、もう一つの我が家で個性や生活スタイルを尊重し、安心して快適な生活を実現するために職員が一丸となり日々ケアに努めている。余暇活動は利用者に応じて音楽療法、園芸療法を取り入れながら、外出支援など四季折々の計画がなされ、人間らしく人生の最期までいきいきと生きられる総合ケアの実践がうかがえる。

建物も第1ユニットは洋風、第2ユニットは和風で落ち着きがあり、利用者は穏やかな表情でゆったりと過ごしている。運営推進会議を定期的に行って地域との連携もよく取り合い、老人会、文化祭、夏祭りやコンサート、近くの幼稚園との交流などを通じてホームの理解も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とふれあい、笑顔で楽しくその人らしい生き方が出来る様支援していきます」の目標を掲げ、申し送り時に復唱、また定期的に話し合いの場を設け、日々のサービス実践に取り組んでいる。	理念を具体化した目標を掲げ、地域密着型サービスとして、地域とのふれあいを大切に、家庭的雰囲気の下で、心の安定と能力に応じた自立ができるサービス実践がうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会、コミュニティセンター等にホーム便りを配布している。また、事業所のイベントの呼びかけや地域イベント等への参加も積極的に行う事で交流を図れている。	地域に密着した生き方を目指し、地域のイベント(老人会・文化祭・保育園との交流等)に参加し、ホームの夏祭りにも招待するなど積極的に交流しており、今後も地域での活躍にますます期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で認知症についての勉強会を開き、理解を深めると共に地域の方から相談を受けたり、アドバイスをしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から徐々に意見、要望が出るなど協力関係が深まっている。また、その意見を運営に反映させる取り組みを行っている。	2カ月毎に開催され、行政から介護保険担当者・地域包括支援センター担当他多くの参加者のもと行事の報告、意見なども反映され活発な活動がうかがえる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームイベントやボランティア活動に参加してもらったりし、情報の交換や相談をしている。	運営推進会議、ホームのイベント行事やボランティア活動にも積極的に参加してもらい、日頃の情報交換や相談にも協力的で良い関係がうかがえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、施錠はしておらず、職員間での定期的な勉強会、また研修等の参加を実施し、話し合いの場を設けている。	身体拘束しないよう職員は常に利用者の気持ちを尊重して援助している。玄関の施錠はしないよう職員が一丸となり見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行っている。日々の生活においても、様子観察し、早期発見に努めている。		

グループホームオアシス香西(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、必要な方は活用出来る様支援している。現在、成年後見制度を活用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、内容について十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また面会時には家族からの意見、要望等を引き出せる様働きかけを行っている。定期的に家族へのアンケートを実施し、得た情報を職員間で話し合い、運営に反映させている。	入居時に重要事項を説明し家族からは面会時や電話連絡時に意見を聞き、得られた意見は運営推進会議に報告して話し合っている。意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、ユニットミーティング等で各職員から意見を聞く。機会を設けたり、日々の会話などで意見交換を行い、改善、実行している。	ユニット毎の話し合いで各職員から意見を聞き出したり、申し送り時にも詳細に報告し合い意思疎通に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の意見、考えを聞き入れ向上心を持って働けるよう努めている。また職員の資格取得に向けた支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて計画的に参加し、技術や知識を身につけ、定期的な会議で伝達し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価活動を通じ、ホーム便りの配布及び、イベントの参加の呼びかけをし交流を図っている。また評価活動で意見交換し、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方から要望を聞きだす事は困難であるが、面接を数回繰り返し、言動・仕草等からくみ取り、また家族等から生活歴、ライフスタイル等を入手し、納得し安心して利用して頂ける様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、本人・家族のおかれている状況を把握し、理解出来る様十分な時間を設け、質問に対し納得して頂けるような丁寧な説明が出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の一番必要としている物は何かを見極め、家族の要望を基に、できる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にしながら、支えあう関係を築けるよう努めている。会話の中から本人より学ぶ事が多い。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日常の状況を必ず報告し、家族からの要望や気がかりな事を引き出す働きかけをし、また家族がゆだねきりにならない様、定期的に手紙で報告し、必要に応じて家族に働きかけてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、近くを通った際に立ち寄ったり、馴染みの人からの面会を働きかけ、継続してもらっている。	近隣への散歩や外出時、馴染みの人との交流を家族・職員と一緒にいることを通じて、利用者の日頃の馴染みの関係を理解してコミュニケーションが取れるような配慮がうかがえる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をしたり、孤立せず交わる機会を作ったり、世話好きな利用者からの働きかけを見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡・相談を行い、継続的な関わりを持てる様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方から要望を聞き出す事は困難であるが、日常生活の中での言動・行動からくみ取り、また家族等からも聞き出し意見を出し合っている。	家族から利用者の生活歴や要望、不安、苦情などについて、できるかぎり意見や要望を聞き、表出が困難な場合でもその背景を検討し、職員共通理解の下支援する努力がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等と馴染みの関係を築きながら、日々のコミュニケーションの中で生活歴を聞いたり、家族に話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・カンファレンス等で現状を把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月毎に職員で話し合いをし、御家族様にも参加して頂き、見直しを行っている。本人様らしい生活をして頂くために本人様の目線を大切にしている。	毎月のカンファレンスで利用者がその人らしく生活が送れるよう、計画については本人・家族に説明、同意を得て介護計画の作成に努めている。今後は、本人の意思と自助の可能性を考えた工夫を期待したい。	本人の意思確認が難しい場合でも、一挙に目的達成をめざす計画は無理が生じやすいので、段階的な計画を検討し、その都度見直す介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、毎日の生活状況・健康状態・排泄・食事・水分摂取等の状況を記録して、職員全員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望を聞き出し取り入れている。		

グループホームオアシス香西(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者・保育園・ボランティア等の協力を得たり、必要に応じて、他施設との情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得たうえで、受診時及び緊急時の対応も含めて、協力医院の助言と医療を受けられるよう支援している。	入居時に主治医を確認し、本人家族の希望する医療機関を受診したり、定期的に協力医療機関で受診するなど、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察・記録等を基に、情報交換を行い、早期発見・早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、病院関係者・本人・家族と話し合い、情報交換をし、必要な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に応じて関係者との話し合いを繰り返し、対応方針について共有を図れる様努めている。また、必要に応じてカンファレンス等を開き、今後の対応について検討している。	入居時に重度化、終末期について家族に説明し、対応については情報共有を図れるよう話し合いはしている。	今後利用者の高齢化等に伴い、重度化した場合や終末期に向けた具体的に事業所のできることにについて、医師、職員等関係者及び家族の希望や要望も聞き入れながら、利用者や家族の気持ちをとらえる話し合いへの工夫を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを作成している。また、定期的に看護スタッフからの指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じ、災害時の協力を得られるよう働きかけている。職員間でも災害時の具体的な避難策について検討し、定期的に訓練を実施している。	防火計画により年2回の避難訓練を実施しており、運営推進会議を通じて地域の協力を働きかけている。マニュアルはできている。	ホームの利用者は2階のため夜間の避難と職員の緊急時の対応について、十分な周知と検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対してさりげない言葉やその人の人格を尊重し、笑顔でケアし、尚且つ、個人のプライバシー確保についても常に心掛けています。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応が行われ、記録等は関係者以外は手に取れない場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で喜怒哀楽が出せるような雰囲気作り、また、個々の意見を取り組める様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自立支援」の立場で、一人ひとりの出来る事、出来そうな事の見極めを各職員が把握しており、その人の残された力を発揮出来る様支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の意向や好みに応じて、髪型や服装などの身だしなみや、おしゃれを個別に支援している。訪問美容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と共に楽しみながら食事をし、ペースに合わせたさりげない食事介助、声掛け、見守りを行っている。また、身体面での重度化により、負担の少ない簡単な作業を働きかけている。	利用者全員に職員が声掛けを行い、それぞれの力を活かした食事の準備、配膳、下膳、後始末等自主的に手伝っており、食事やおやつも皆で味わい、楽しめる支援がうかがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業者の栄養士の協力を得て、食事カロリー、バランスは確保出来ている。また、食事・水分量についても、個人記録に記載し、常に把握出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。また、個人記録に記載し、把握出来るよう努めている。		

グループホームオアシス香西(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮し、周囲に分からない様に、さりげない声掛け・誘導により対応している。	毎日のケアの記録により、利用者の排泄習慣やパターンに応じた定期的な誘導、利用者に応じたさりげない対応がうかがえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、食事形態を工夫したり、飲み物などで対応し、出来るだけ自然排便を促せる様工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、希望にあわせて入浴できるように支援している。	利用者の希望を聞きながら、家族の意向もくみ、入浴出きる努力がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、1日の生活リズムを確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に貼付している服薬の目的、副作用等の指示を常に確認し、必要時看護スタッフに相談しながら支援している。また、定期的に症状について医療機関に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割分担を持って頂き、暮らしの中で楽しみや喜びを味わって生活して頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に考慮し、天気の良い日には出来るだけ多くの利用者に外出の機会を取って頂ける様支援している。また、家族の協力を得て、個別に外出している。	その日のバイタルチェックを実施してから外出支援を行っている。要望に応じて散歩や、外出困難者には車椅子や家族の協力を得ながら支援を行い、感想を聞くなどして改善に努力している。	

グループホームオアシス香西(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理をしている人もいる。管理出来ない人には、買い物が出来る様支援している。出納帳を作成し、家族に確認して頂き、理解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には、手紙を書いて頂いたり、筆記の出来ない方などは、電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に過ごせる場所や他の方と談笑できる場を設け、居心地よく過ごせるよう工夫している。	季節の花を生けたり鉢物をおき、また、装飾品を替えたりして季節感を出している。共有スペースにあるテレビの音量にも気配りがあり、採光にも工夫がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の場所には、利用者が1人になれる場所や、ホーム内が広い為、自由に移動して頂いたり、天気の良い日等には、自由にテラスで日光浴出来る場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを使用して頂き、安心して過ごせる場所となっている。	利用者の日頃使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物などを持ち込み、居心地良い生活が送れる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している。また、個々に適した補助器具や、食器を使用している。居室入り口には、個人で作成したのれんを飾り、場所の間違えをしないよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所に設けている理念に加え、新たにユニット毎に地域密着型サービスに向けての目標を立て毎朝申し送り時に唱和。それに基づいた介護が出来る様定期的な話し合いの場を設けている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会、コミュニティーセンター等にホーム便りを配布している。また、事業所のイベントの呼びかけや、町内の文化祭、夏祭り等への参加を行うことで交流を図れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を受けたり、アドバイスをしたりしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から少しずつではあるが、意見やアドバイス等が出てくるようになり、それを運営に反映させるよう取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームでのイベントやボランティア活動に参加いただいたりし、情報交換や相談を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所において、身体拘束が行われていないかを定期的に確認するとともに、勉強会や研修への参加等行うことで、身体拘束0を保てるよう努力している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会や研修等への参加を行い、日々の生活においても、様子観察し、早期発見に努めている。

グループホームオアシス香西(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、必要な方は活用できるよう支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、内容について十分な説明を行い、理解、納得を図っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、御家族様の面会時に意見、要望を引き出せるよう働きかけを行っている。定期的に、御家族様へのアンケートも実施しており、得た情報を職員間で話し合い、運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、ユニットミーティング等で、各職員から意見を行く機会を設けたり、日々の会話や申し送り等で意見交換を行い、改善、実行している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の意見、考え方を聞き入れ、向上心を持って働けるよう努めている。また、職員の資格取得に向けた支援も行っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて計画的に参加し、技術や知識を身につけたり、定期的な会議で伝達し共有している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価活動を通じ、ホーム便りの配布及びイベント等への参加の呼びかけをし、交流を図っている。また、評価活動で意見交換し、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方から要望を聞きだすのは困難であるが、面接を数回繰り返して、言動、仕草からくみ取り、また家族等から生活歴、ライフスタイル等入手し、安心して利用して頂ける様努力している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、本人、家族の置かれている状況を把握し、理解できるよう十分な時間を設け、質問に対し納得して頂けるような分かり易く、丁寧な説明が出来るよう努力している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の一番必要としている物は何かを見極め、家族の要望を基に、出来る限りの対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にしながら、支えあう関係を築ける様努力している。また色々な場面において、励ましてもらったり教わる事も多くある。
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の状況を報告し、家族からの要望や気がかりな事を引き出す働きかけをし、得た情報を職員間で共有している。また、家族がゆだねきりにならないよう、定期的に手紙で状態報告している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用や、馴染みの知人、友人等の継続的な交流が出来るよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、利用者同士の関係がうまくいくよう努めている。

グループホームオアシス香西(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡、相談を行い、継続的な関わりを持てる様努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方から要望を聞きだすのは困難であるが、日常生活の中での言動、行動等からくみ取り、また家族等からも意向を伺い、プランに反映させている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からアセスメントをしっかり行い、また本人との馴染みの関係を築いていく中で、生活歴や趣味を聞き、把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンス等で現状を把握するよう努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活の中から介護ニーズを探り、カンファレンスにてアイデアを出しあっている。現状で解決できない課題に関しては、家族に昔の生活歴や性格を再度聞きながらアプローチのヒントにし計画作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、毎日の生活状況、健康状態、排泄、食事量、水分摂取量等の状況を記録して、職員全員が情報を共有し、また必要に応じてカンファレンスを行い、見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスのレクリエーションに参加したり、本人、家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。

グループホームオアシス香西(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が住み慣れた地域で、安心して日常生活が送れるよう、地域関係者、保育園、消防署、ボランティア等の協力が得られている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得た上で、受診時及び緊急時の対応も含めて、協力医院の助言と医療を受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員や医療連携による馴染みの看護師の定期的な訪問により、日々の健康管理に努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、病院関係者、本人、家族と情報交換し、必要な支援を行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に応じて、関係者との話し合いを繰り返し、対応方針について共有を図れるよう努めている。また、必要に応じてカンファレンスを行い、家族を含め今後の対応について検討している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアル、緊急時の連絡マニュアルを作成し、周知している。また、看護スタッフによる勉強会も行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を定期的実施し、備えている。また運営推進会議を通じて、地域と協力しあえるよう働きかけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関り方について勉強会やミーティングで確認し合い、プライバシー確保に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で喜怒哀楽が出せる様な雰囲気を作り、また個々の意見を取り入れ、実践出来る様働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の意向や好みに応じて、髪型や服装、化粧などの身だしなみやおしゃれを個々に支援している。また、定期的な訪問理容を利用している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に好みを把握したり、その日食べたいものを聞くなどして、メニューを決めている。また、積極的に台所に入ってお手伝いいただいたり、味見をしていただくなど、楽しい食事ができるよう心掛けている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査や、月1回の体重測定を行い、状態を把握した上で、食事量や栄養バランスを考えた食事を個々に提供している。また、水分量を毎日チェックし、十分な水分量が確保できるよう努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所へ誘導し、必要に応じてブラッシング、うがい、入れ歯の手入れをして頂いている。十分なケアがご自分で出来ない方は、職員が手伝っている。

グループホームオアシス香西(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導チェック表にて、毎日の排泄及びおむつの汚染チェックを行うことで、個々の排泄パターンをある程度予測し、声掛けや誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便できるよう、水分量のチェックを行ったり、食材の工夫や運動を働きかけている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、その日の希望を確認し入っ ていただいている。また、入浴が嫌いな方も声掛けを工夫し、楽しい入浴が出来る様努 めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、1日 の生活リズムを確保している。また、昼夜逆 転にならないように昼間の活動性を高める 等の支援をしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に貼付してある服薬の目的、副 作用などの支持を常に確認し、必要時看護 師に相談しながら支援している。また、定期 的に症状について医療機関に報告してい る。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる役割を見つけ、本人のペースで行う ことが出来る様支援している。また、昔の楽 しかった思い出に浸れるような歌や嗜好品 を提供し、気分転換が図れる様努めてい る。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩に行ったり、本人の希望に応じ て外食、ドライブ等にでかけている。

グループホームオアシス香西(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理している人もいる。管理出来ない人には、買い物が出来る様支援している。出納帳を作成し、家族に確認して頂き、理解を得ている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、手紙を書いて頂いたり、電話をかけることが出来る様支援している。電話を掛ける際は、あらかじめ御家族と話し合い、都合を聞いた上で行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に過ごせる場所や他の方と談笑する場を設け、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、季節の花を飾るなどして、季節感を味わっていただいている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の場所には、利用者が一人になれる場所や、ホール内が広い為、自由に行き来していただいたり、天気の良い日等には、テラスで日光浴やティータイムを過ごせるような場所がある。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品、装飾品などを使用して頂き、安心して過ごせる場所となっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設け、またデザインの違うのれんを着けて覚え易くしている。また、各トイレには「あいています」「つかっています」の表示を利用者が変えられるようにしており、活用している。